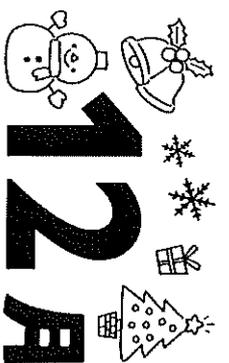


2025年 矢向あけぼの保育園だより



先月は、保育園でインフルエンザが早々と流行しました。新しい「サブグループK」という変異株がだといわれています。12月がピークと言われるようですが、年末年始で人が動くことで、1月も感染が広がる予測をたてている専門家もいるようです。忙しい12月ですが、日頃の感染予防プラス、十分な栄養補給と休息を心掛けていきたいですね。

サンタクロースは本当にいるの？



矢向あけぼの保育園には、毎年クリスマス会にサンタクロースさんが保育園のみんなと遊ぶおもちゃや、たくさん運んできてくれます。子どもたちにとってのサンタクロースさんは、プレゼントも嬉しいのですが存在そのものがわからず、会えることが一番楽しみなのです。

この時期、クリスマスの飾りをつくっていると、子どもたちから「サンタさん来てくれるかな？」「保育園の場所わかるかな？」と自然と会話にできます。年長さんぐらいになると、サンタクロースの存在を疑いだす子もいますが、まだまだ半信半疑です。心の成長と共に空想の世界と現実の世界があることを知っていきます。周りからの情報だったり、友だちに言われたりと物事を理論的・客観的に考えるからだとはいわれています。

保育園は、まだまだ空想の世界を楽しめる年齢でもありますし、実際、インランドにサンタクロースは実在しています。何よりも、世界中の子どもたちの幸せを願ってプレゼントを配る存在であるという優しい世界観が、私ほども大好きです。大人は、「いい子にしていなさいよ、サンタさんこないよ、プレゼントもらえないよ。」と子どもに言い聞かせてしまいがちですが、サンタクロースはどの子にも、幸せと愛を配る存在として、心待ちにしてもらいたいと思います。いずれサンタクロースは、親が役割を担ってくれていたと知る時期がきます。それまでは、この夢の世界を大人も一緒に大事にしていきたいですね。

発表会ごっこ

12月3日に、5日の幼児の発表会のリハーサルもかねて、つくし組から順番に、みせあいっこをしました。あそびの中で日々取り組んでいましたが大勢にみられるのは初めてだったので、いつもと違った姿を見せていました。小さいお友だちが前に出ていくと、「頑張ってるね！」と優しく応援する子もいれば、自分の事でいっぱい落ちて着かなくなる子もいました。終わつたあと、幼児さんは本番にむけて話しあったり、乳児さんも、ここは今度一緒にやってみようなど、そこから広がっていくついています。乳児の姿は、懇談会で映像を通して観ていただく予定です。

今年度は、普段の日の行事開催で保護者の方々にはお仕事などの調整をして参加していただき本当にありがとうございました。

署名のご協力ありがとうございました。

「子どものための予算を大幅に増やし国の責任で安心できる保育・学童保育の実現を求める請願書名」は約170万人になり国会に提出されています。このような、活動を続けることで制度や保育予算が見直され改善しているところもあります。来年も秋には、このような取り組みがありますのでその時は、引き続きご協力のほどよろしくお願いいたします。